

4. 立地の適正化に関する基本的な方針

4.1 まちづくりの方針

国土のグランドデザインの考え方を踏まえ、本市の都市構造上の課題の解決と合わせて、上位計画で示す「拠点連結（いもフライ）型都市構造」の形成に向け、まちづくりの方針を次の通り設定します。

本市は、発展を支える4つの拠点を中心とする都市構造を有しており、それぞれの拠点の特色を活かして、魅力を高めつつまちなか居住を推進し、それらを連結させて交流を生むことで、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進します。

国土グランドデザイン2050の考え方

- **コンパクト+ネットワークの意義・必要性**
質の高いサービスを効率的に提供 新たな価値創造
- **多様性と連携による国土・地域づくり（「多様性と連携」を支えるのがコンパクト+ネットワーク）**
 - ・ 各地域が「多様性」を再構築し、自らの資源に磨きをかける
 - ・ 複数の地域間の「連携」により、人・モノ・情報の交流を促進

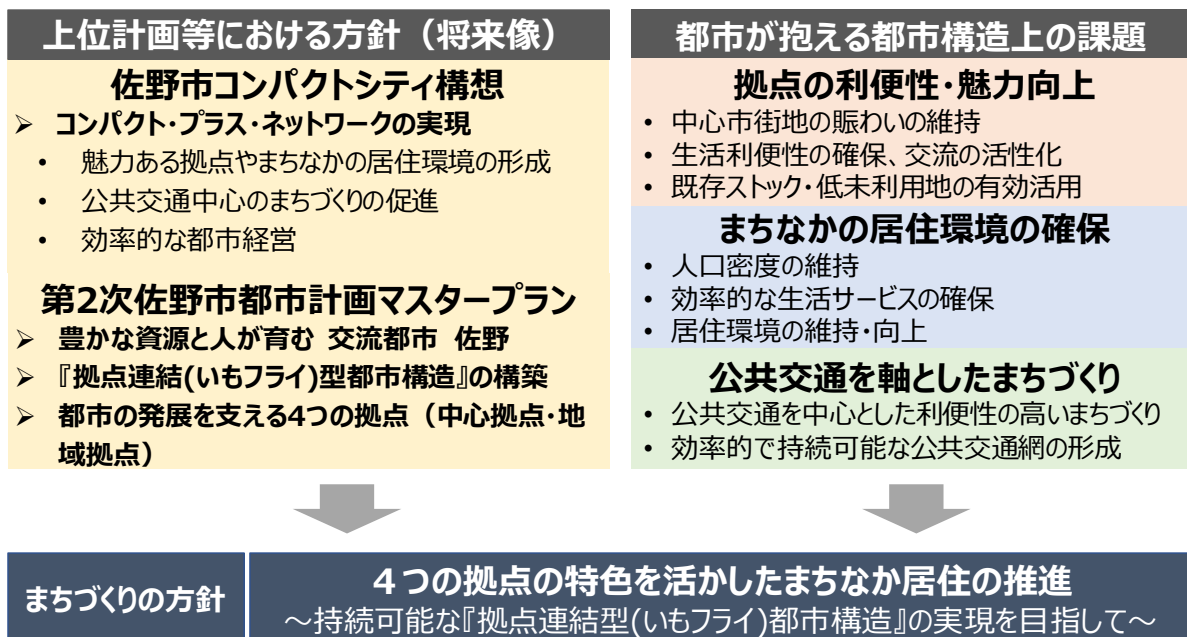


図 4-1 まちづくりの方針

4.2 目指すべき都市の骨格構造

佐野市は、中心市街地、田沼市街地、葛生市街地、佐野新都市のそれぞれ特色異なる4つの拠点が存在する都市構造となっています。平成30(2018)年度策定の佐野市コンパクトシティ構想及び都市マスにおいては、中心市街地を「中心拠点」、田沼市街地、葛生市街地、佐野新都市を「地域拠点」と位置付けています。

本計画では、4つの拠点を核として都市機能誘導区域を設定します。居住誘導区域は、都市機能誘導区域の周辺を基本として設定します。さらに、市街地を結ぶ公共交通路線を第2次佐野市地域公共交通計画と合わせて、地域間幹線及び地域内支線と位置付け、拠点同士が連携・交流できるような利便性の高い公共交通軸の形成を図ります。

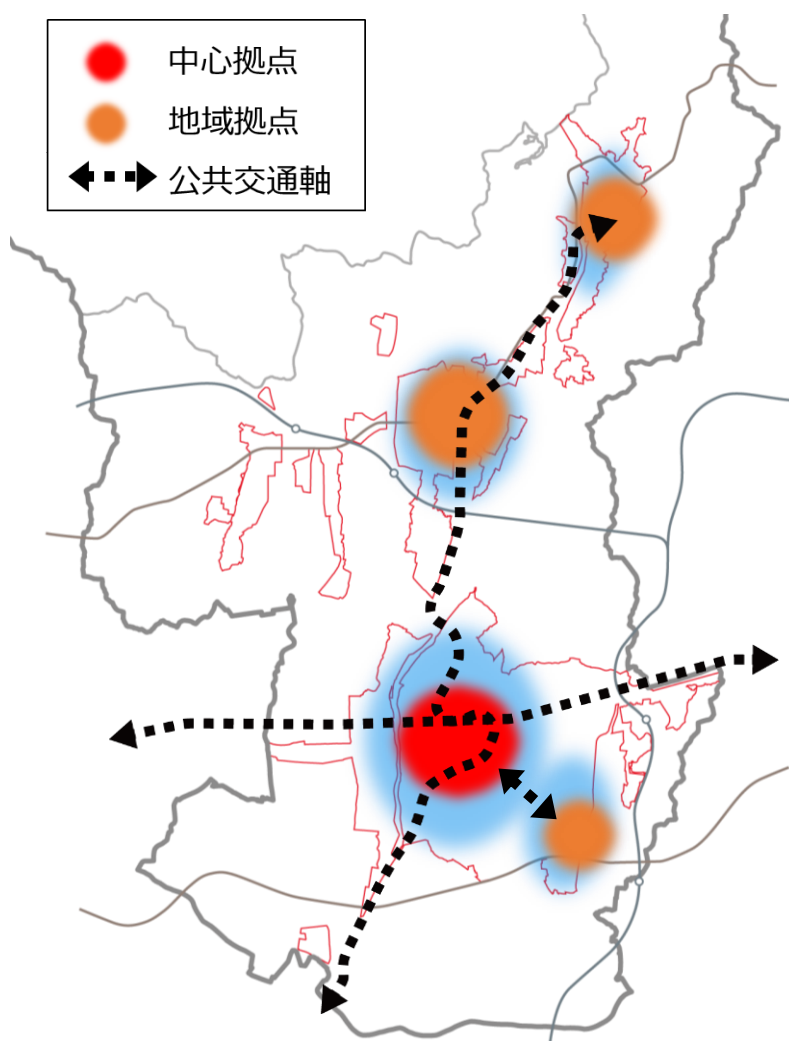


図 4-2 目指すべき都市の骨格構造

4.3 課題解決のための誘導方針

まちづくりの方針の実現に向けて、「1. 各市街地の特徴・役割を活かした魅力ある拠点づくり」「2. その土地の暮らしの良さを感じられる快適な居住環境の形成」「3. まちなか・拠点の機能分担や交流を支える持続可能な公共交通ネットワークの形成」を課題解決のための誘導方針として示します。

「1. 各市街地の特徴・役割を活かした魅力ある拠点づくり」では、特徴の異なる各拠点において、市街地に必要な機能や役割を明確にし、その土地の資源・ストックを上手く活用することで、まちなかの賑わいの向上や交流の活性化に資する都市機能の誘導を図ります。

「2. その土地の暮らしの良さを感じられる快適な居住環境の形成」では、地域に見合った快適な暮らしを居住者が享受できるように、生活サービスが充足するまちなかや居住環境の確保がしやすい拠点周辺に対して、居住の誘導を図ります。

「3. まちなか・拠点の機能分担や交流を支える持続可能な公共交通ネットワークの形成」では、都市機能の集約による拠点形成と拠点周辺への居住誘導と連携しながら、交流の活性化に資する持続可能な交通体系の形成に取り組みます。

まちづくり の方針	4つの拠点の特色を活かしたまちなか居住の推進 ～持続可能な『拠点連結型(いもフライ)都市構造』の実現を目指して～	
課題解決 のための 誘導方針	【誘導方針1】 各市街地の特徴・役割を活かした 魅力ある拠点づくり	【誘導方針2】 その土地の暮らしの良さを感 じられる快適な居住環境の形成
	特徴の異なる各拠点において、市街地に必要な機能や役割を明確にし、その土地の資源・ストックを上手く活用することで、まちなかの賑わいの向上や交流の活性化に資する都市機能の誘導を図る。	地域に見合った快適な暮らしを居住者が享受できるように、生活サービスが充足するまちなかや居住環境の確保がしやすい拠点周辺に対して、居住の誘導を図る。
	【誘導方針3】 まちなか・拠点の機能分担や交流を支える持続可能な 公共交通ネットワークの形成 都市機能の集約による拠点形成と拠点周辺への居住誘導と連携しながら、交流の活性化に資する持続可能な交通体系の形成に取り組む。	

図 4-3 課題解決のための誘導方針